

## 『マニフェスト白書2008－マニフェストのあり方を問う－』要点

PHPマニフェスト検証委員会[編]

PHP総合研究所発行

### 1. 政策本位の政治を実現するためのマニフェストのあり方とは

#### －総選挙に向けた7つの提言－

\* 詳細は『マニフェスト白書2008』本文を参照

昨今のマニフェストを取り巻く現状を鑑み、次の総選挙に向け、マニフェストのあり方についての提言を行った。

#### マニフェストの内容に関する提言

**提言1**：マニフェストには目標設定と基本政策、ならびに喫緊の重要争点を体系的にあらわせ

- ①10年後の日本をこうする(こうしたい)という目標設定を行う。
- ②「基本政策」とは、①で示した目標達成のための政策の体系であり、目指す「国のかたち」である。
- ③「喫緊の重要争点」とは、当該の選挙において政党が重視する課題に向けた具体的な政策であり、その時点における政策の優先順位を示すものである。

**提言2**：予算編成の姿を示せ－マニフェストを実行する場合の大枠の予算編成や国民の負担と受益の具体像を示す。

**提言3**：マニフェストの様式を統一せよ－マニフェストの様式が各党共通になると有権者にとっては比較しやすくなる。

#### マニフェストサイクルに関する提言

**提言4**：いつでも参照できるようにせよ－マニフェストは、その政党が進めようとしている政策として、選挙中も選挙後も参照できるものでなくてはならず、その制度化が必要。

**提言5**：施政方針演説や「骨太の方針」などに反映させたことを示せ－これによって、マニフェストが政党の政策から政府の政策に転換したことが明確にわかるようになる。

**提言6**：年に一回は進捗状況を報告せよ－与党はアニュアル・レポートを発行し、どのマニフェストがどの政府の政策にどのように反映されたかを具体的に示す。

**提言7**：政策変更の説明責任を果たせ－政策は状況の変化によって柔軟に変更していくべきものである。その内容がマニフェストと異なる場合には、きっちりと説明責任を果たさなければならない。

## 2. 自公与党の実績を検証する

### 【検証方法】

- 評価対象：自公与党の2005年衆議院選挙および2007年参議院選挙のマニフェスト
- 評価方法：図表1で示すように、マニフェストに示された個別政策が5段階の進捗状況のどのレベルにあるかで点数（「進捗度」）をつけ、さらにその政策の「難易度」を0～1の間で評価し、それらをかけ合わせたものを「達成度」として25点満点であらわすようにしている（図表2）。

図表1：進捗度と難易度

進捗度
着手(0～5点)：政策の実現に向けて何かを着手したというもっとも初期の段階
検討(6～10点)：実現に向け何らかのかたちで実際の議論などを進めている段階
具体化(11～15点)：議論の段階から、実際の実施に向けた具体的な方策が示される段階
実施(16～20点)：政策を実施する段階
効果(21～25点)：政策を実施した結果として効果があらわれている段階
難易度(0～1点)：政策の実現が比較的容易か困難か

図表2：個別政策の達成度の計算式

$$\text{達成度}(0\sim 25) = \text{進捗度}(0\sim 25) \times \text{難易度}(0\sim 1)$$

- 個別政策を束ねる政策分野ごとの評価は、「進捗度」「難易度」「達成度」いずれに関しても、その政策分野における個別政策評価の平均値を算出し、それに満点が100点になるように調整。全体の平均は政策分野の得点の平均値。

### 【05年衆院選マニフェストがどれだけ進められたか】

#### 自民党：洞爺湖サミットを機に「環境」が進捗

- 進捗度平均69点は「やるといったことをすべて行った＝80点」（やることをすべて行い、期待した効果が出た＝100点）には至らないが、それに向けての取り組みを相当程度実施したと評価できる。
- 個別政策148項目のうち、「議論の段階あるいはそれ以前」と評価されたのは7項目（前回比3項目減）。「政策を実施する段階」にある公約は104項目（前回比9項目増）、「マニフェストに示したことを実施し効果を出しつつある」段階の項目は13項目（前回比1項目増）。
- 進捗度では、最高が「外交・安保」の74点、最低が「行財政」の64点。一番得点を伸ばしたのは「環境」で、洞爺湖サミットを機に政策の推進力が高まったものと考えられる。
- 達成度では、最高が「外交・安保」の43点、最低が「経済」と「教育」の25点であり、自民党は「外交・安保」を重視してきたといえる。

図表3: 2005年衆議院選挙自民党マニフェスト評価

	難易度	2006年9月		2007年5月		2008年8月	
		進捗度	達成度	進捗度	達成度	進捗度	達成度
政治	0.53	69	37	72	39	73	39
行財政	0.45	58	26	61	27	64	28
経済	0.37	65	23	67	24	69	25
生活	0.39	63	24	67	25	68	26
教育	0.38	60	22	64	24	67	25
環境	0.50	59	27	62	29	69	34
外交・安保	0.58	68	39	72	41	74	43
分野平均	0.46	63	28	66	30	69	31

**公明党:「行財政」で最も高い伸び**

- 進捗度平均64点は「議論の段階から実施に向けた具体的な方策が示され、部分的に実施が開始された」段階と評価できる。
- 個別政策では、161項目のうち「議論の段階あるいはそれ以前」と評価された公約は13項目(前回比4項目減)。「政策を実施する段階」にある公約は102項目(前回比6項目増)、「政策を実施した結果として効果があらわれている段階」にある公約は17項目(前回比4項目増)。
- 進捗度では、最高が「経済」の72点、最低が「政治」の47点。洞爺湖サミットに関する公約が少なく、「環境」は自民ほど大きく伸びず。
- 達成度では、「政治」が最高の34点、「生活」が最低の23点であった。公明党は、進捗は進んでいないものの、「政治」分野を重視していることがうかがえる。また、「行財政」に限っては、自民党より高い得点を上げた。

図表4: 2005年衆議院選挙公明党マニフェスト評価

	難易度	2006年9月		2007年5月		2008年8月	
		進捗度	達成度	進捗度	達成度	進捗度	達成度
政治	0.70	33	25	47	34	47	34
行財政	0.49	58	29	65	31	69	33
経済	0.37	66	23	70	25	72	26
生活	0.36	57	21	61	22	63	23
教育	0.37	63	23	65	24	67	25
環境	0.36	65	23	67	24	68	24
外交・安保	0.45	57	26	61	27	64	28
分野平均	0.44	57	24	63	27	64	28

## 【07年参議院マニフェストがどれだけ進められたか】

### 自民党: 政権が代わっても「外交・安保」を重視

- 進捗度の平均60点は「議論の段階から実施に向けた具体的な方策が示された」段階。
- 「議論の段階あるいはそれ以前」と評価された個別政策は全155項目のうち9項目。「政策を実施する段階」にある公約は107項目、「政策を実施した結果として効果があらわれている段階」の公約は1項目。
- 進捗度では、最高が「経済」の65点、最低が「政治」の53点。「200年住宅」や「医師不足問題への対応」など、福田首相が掲げた「生活者重視」の政策は既に公約に含まれていたが、大きな進捗は見られず。
- 達成度では、「外交・安保」が最高の36点、「生活」が最低の21点。「外交・安保」重視は変わらず。

### 公明党: 「行財政」を重視するも、すべての分野で低い難易度

- 進捗度平均56点は、すべてではないが、「議論の段階から実施に向けた具体的な方策が示されている」段階。
- 「議論の段階あるいはそれ以前」と評価された個別政策は全236項目のうち、35項目。「政策を実施する段階」にある公約は139項目、「政策を実施した結果として効果があらわれている段階」の公約は4項目。
- 衆院マニフェストに比べ、すべての分野において、難易度を落とす。これは既に進捗している衆院選マニフェストの多くを、全く同じかほぼ同じ形で再び掲げたため。
- 政策分野別（進捗度）では、最高が「行財政」と「経済」の62点、最低が「政治」の35点
- 達成度では「行財政」が最高の25点。「生活」と「教育」が最低の19点。公明党は「行財政」を重視。他方、「生活者重視」を掲げてきた公明党だが、「生活」を重視して取り組んだと読み取ることはできない。

図表5: 2007年参議院選挙自民党・公明党マニフェスト評価(2008年8月)

	自民党			公明党		
	難易度	進捗度	達成度	難易度	進捗度	達成度
政治	0.48	53	22	0.58	35	23
行財政	0.48	60	29	0.42	62	25
経済	0.36	65	23	0.34	62	21
生活	0.35	61	21	0.34	57	19
教育	0.36	63	22	0.31	60	19
環境	0.45	58	26	0.34	60	21
外交・安保	0.58	62	36	0.43	58	24
分野平均	0.44	60	26	0.40	56	22